

鶴見区区政会議 平成２８年度第２回地域コミュニティ・保健福祉部会

1 日時

平成２８年９月２８日（水） １９時００分～

2 場所

鶴見区役所 ４階 ４０２会議室

3 出席者

（委員）

久木部会長、早野副部会長、笹原委員、田中（潔）委員、西村委員、
正脇委員、吉江委員

（区役所）

河村区長、小川地域活動支援課長、嶋原保健福祉課長、貴志生活支援担当課長、
浅田保健福祉課保健担当課長代理、西田保健福祉課福祉担当課長代理、
金森保健副主幹兼保健福祉課担当係長、河本保健福祉課担当係長、
小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長、古田保健福祉課担当係長、
揚保健福祉課担当係長

4 議題

１． 平成２９年度鶴見区の取組みの方向性について

5 議事

開会 １９時００分

○河本保健福祉課担当係長 定刻になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議
平成２８年度第２回地域コミュニティ・保健福祉部会を開催させていただきたいと思
います。

私は、本日司会を務めさせていただきます保健福祉課担当係長の河本でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

本来は、ここで区長がご挨拶させていただくところですが、本日は委員の皆様の活
発な議論をいただきたいということで、後ほどご挨拶をさせていただきますので、ご
了承賜りますようお願いいたします。

まず、冒頭に全体会でもご報告させていただきましたが、長年鶴見区の区政会議の
委員を務めていただきご尽力賜りました、当部会の佐藤委員が、本年7月にご逝去さ
れました、改めてこれまでのご功労につきまして、お礼申し上げたいと思います。

つきましては、佐藤委員にかわりまして、新しい委員の方をご紹介させていただ
きたいと思います。

鶴見区老人クラブ連合会から、新たに委員に就任していただきます吉江委員でござ
います。

○吉江委員 こんばんは。

今、ご紹介ありましたように、私の前任の佐藤さんが急逝ということで、後を引き
継ぎまして、私が今度委員ということで参加させてもらったんですけども、初めての
ことで西も東もわからないような状態ですけども、できるだけ頑張って皆さんについ
ていきたいと思ひますし、また我々老人クラブの思つてることとか、やりたいことと
か色んなことがありますので、それをご参考にしてもらえたらと思ひますし、また老
人会に対してご意見ございましたらいろいろおっしゃっていただきましたら、私ども
参考にして、みんなで頑張って老人クラブ活動をやりたいと思ひますので、よ
ろしくご指導お願いしたいと思ひます。

よろしくお願いいたします。

○河本保健福祉課担当係長 吉江委員、ありがとうございました。

今回の部会ですけれども、29年度の運営方針策定に向けまして、28年度の取組
み及び取組み状況をご説明した上で、29年度の取組みに対するご意見やアイデアを

お伺いする予定としております。

また、今回参考資料で配布しております第1回区民アンケート（自由意見）ですが、こちらのほうは委員の皆さんからのご意見をお伺いするにあたりまして、参考として無作為抽出のアンケートから、どのような意見・アイデアが出されているかを紹介させていただくためにお付けしております。ご活用いただきたいと思います。

それでは、これより議事進行を久木部会長にお願いいたします。

部会長、よろしくお願いいたします。

○久木部会長 それでは、皆さんこんばんは。

大変天気の良い中、お集まりいただきました。もう既に日本の天気は、亜熱帯の気候ですね、スコールあり、何でもありな天気になってきましたんで、くれぐれも健康にもそうですけど、水害等もまた気をつけていただきたいと思います。

それでは、新たに吉江委員にも入っていただきまして、この部会を開催いたしたいと思います。今年2回目ということでありまして、また貴重な時間、我々もそうですけど、行政の皆さんにも貴重な時間を費やして参加していただいていますんで、ぜひ建設的な意見をお願いしたいと思っています。

それでは、議事進行を開始したいと思います。

議題1 平成29年度鶴見区の実施の方針について、事務局お願いいたします。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長 皆さんこんばんは。地域活動支援課兼保健福祉課の担当係長しております小谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

すみません、座って進めさせていただきます。

私からは、資料の2ページのほうでございます。経営課題2の地域コミュニティの活性化のほうをまずご説明させていただきます。

まず、この地域コミュニティの活性化ですが、めざす状態といたしまして、幅広い人たちが参加しやすい魅力ある地域活動が行われ、人材、モノ、資金、地域情報等の

地域資源が活用され、循環する地域コミュニティをめざすということを、おおむね3年から5年間で念頭に設定をしております。

続きまして、戦略のほうでございますが、自立的な地域運営や地域活動の活性化に向けた支援、地域活動への関心が低い人たち、また地域活動に関わりの薄かった人が地域活動へ参加しやすい環境づくりに向けた支援を行う。また、多様な分野における市民活動について、人材、モノ、資金、地域情報等の地域資源が活用され、循環する地域社会の活性化を図るということを戦略として挙げております。

続きまして、3ページでございます。こちらのほうは、平成28年度の実施内容と具体的な実施内容を記載させていただいております。

まず、実施内容といたしましては、各地域に担当職員を複数名配置し、自律した地域運営に向け、中間支援組織と連携して支援を行う。

また、地域活動に関するさまざまな情報を収集・把握するとともに、広く区民や地域活動団体にPRする。人材、モノなどですね、地域資源が活用され、循環する地域社会の活性化を図り、地域の自主財源確保に向けた支援を行うということを、28年度の実施内容としております。

具体的な実施内容といたしましては、中間支援組織と連携し、地域団体に会計の透明性の確保に向けた助言・指導、また、各地域の広報活動への助言・指導をこれまで行ってきております。また、地域活動や地域の魅力などの情報発信ですとか、地域の法人格取得支援について、随時行ってきているところでございます。

資料の下段の写真なんですけど、これまで私どもでやってます、各地域活動協議会が発行しました広報紙を取りまとめたもの、広報紙集と、広報の勉強会ということで、まち歩きの様子を掲載しております。

続きまして、資料の10ページをお願いいたします。

○河本保健福祉課担当係長 今日お配りしたのものにはページが入っております。事前の分にはページが入っていないのでこのままお使いください。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長　　続きまして、平成２９年度の主な取組みの方向性に移ります。

まず、現状ですが、区民が「声かけ」「見守り」「助け合い」「支えあい」を実感できていない、また地域活動協議会の認知度がまだまだ低いということや、地域活動の担い手の不足、それと高齢化とともに、地域活動への参加や関心が十分な広がりを見せていないというのが現状かと考えております。

また、その右横の課題でございますが、地域活動の担い手の確保ですとか地域活動への参加促進、また地域活動等に参加するきっかけづくりなど、皆さんが参加しやすい環境づくり、また団体間の連携・協力を促進することが必要である。地域や地域活動への関心を高めるため、積極的な情報発信が必要である。また、自律した地域運営が必要であるということを課題として考えております。

左の下に移りますが、平成２９年度の取組みの方向性といたしまして、中間支援組織と連携し、以下の支援を行うというふうに考えております。

まず一つ目につきましては、新たな担い手の確保に向けた支援の強化。二つ目といたしましては、会計の透明性の確保に向けた支援の強化を考えております。

その右横のほうですが、平成２９年度考えられる取組みといたしましては、各地域に担当職員を複数名配置し、自律した地域運営に向けた支援を中間支援組織と連携して行っていく。二つ目、地域活動に関するさまざまな情報を収集・把握するとともに、地域の魅力が伝わる広報の作成支援を行う。三つ目といたしましては、会計マニュアルの充実ですとか、会計の透明化に向けた勉強会の開催というふうに考えております。

地域コミュニティの活性化につきましては、以上でございます。

○ 揚保健福祉課担当係長　　続きまして経営課題５、４ページにお戻りください。

ページ数が見にくいと思いますが、経営課題５ 健康で安心して暮らせるまちという項目になっております。

戦略５－１ 住みなれた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進ということで、戦

略を立てさせていただいております。おおむね3年から5年間におけるめざす状態ですが、高齢者や障がい者が周囲に支えられ、また、安心して暮らせるようになったと感じる区民の割合を増やすということにしております。

中期的な戦略ですが、区の地域福祉を着実に進めるため、地域福祉活動に関する広報や啓発を行い、人権を尊重し、みんなで支えあう社会づくりの機運を高めると共に、平成27年3月に策定した「鶴見区地域保健福祉ビジョン」に基づき、活動の充実を図られるように支援するというにしております。

5ページ、具体的な28年度の取組みでございます。高齢者、障がい者への理解の啓発等、まず12月17日に開催を予定しております高齢者、障がい者と地域、団体とのつながり、ふれあいをテーマとしました啓発事業「つながろうふれあいフェスタ」の実施を予定しております。

10月20日には、障がい者支援関連の研修会・講習会の開催を予定しております。

10月29日には、高齢者への理解を深めるための講演会ということで「区民で支えよう認知症」という講演会を予定しております。

あと、高齢者福祉に関しましては、毎月1回、地域包括支援センター職員や福祉専門職員のスキルアップを図るための勉強会や事例検討会も開催しております。

以下、写真は昨年度の様子になっておりまして、「つながろうふれあいフェスタ」と「区民で支えよう認知症」講演会と毎月の勉強会・事例検討会の写真でございます。

「つながろうふれあいフェスタ」は今回、大ホールだけで実施をさせていただこうと考えております。

戦略5-1の29年度の施策の方向性ということで、11ページをご覧ください。

戦略5-1 住みなれた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進ということで、現状といたしまして、高齢者世帯がますます増加してきており、地域福祉の課題は多様化、複雑化、深刻化してきている。

障がい者支援につきましては、生活全般であり、そのニーズも多種多様である。

障がい者への理解が進んでいないということ踏まえ、高齢者・障がい者が安心して暮らしていくには、地域ネットワークが効果的に機能し、高齢者・障がい者の相談支援体制が必要であり、地域や地域包括支援センター、関係機関との連携が緊密に図られなければならない。地域で安心して暮らせるよう、高齢者・障がい者に対する正しい理解の普及が求められているということを前提といたしまして、平成２９年度の実組みの方向性でございます。

まず、啓発は常に続けていかなければならないと思っております、認知症と障がい者の支援に向けての実組み、啓発を進めてまいります。

あと、困難ケースへの対応に向けた連携強化ということで書いておりますが、さまざまなケースにつきまして、個々それぞれの対応があるかと思えます。その都度、連携が必要になってくるかと思っておりますので、その点につきまして、今後も連携を強化・促進していくように努めてまいりたいと思っております。

具体的な実組みでございますが、認知症・障がい者への理解の啓発につきましては、講演会や情報交換会、研修会を通じてしていきたいと考えております。

あと、連携強化につきましては、各種いろいろ連絡会がございますので、そういったところでの情報交換であるとか、研修として、多職種協働グループワークなどの開催を考えております。

情報提供と書いておりますけども、やはり連携や相談の前提といたしましては、資料・情報が必要となってくると考えておりますので、現在の福祉マップが古くなっておりますので、改めてまた作成を考えております。

以上です。

○古田保健福祉課係長　続きまして、保健福祉課の古田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは地域福祉力の向上ということで、お手元の資料６ページになります。

住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業の推進ということで、平成２８年度

の具体的な現時点の取組みの内容を挙げさせてもらっています。

こちらの事業につきましては、地域で行われている地域福祉活動であったり、平成 27 年度各地域に 1 名ずつ配置されているつなげ隊の活動であったり、地域人材の発掘のツールの一つとして、地域有償ボランティア制度を推進していくといういろんな事業がある中で、総合的に総括することによって、それぞれの事業が連携した一つの大きな地域福祉の推進を進めていく要の事業として展開していきたいということで挙げさせてもらっています。

大きなところでいいますと、コミュニティソーシャルワーカーを配置するということで、4 月 1 日から 3 名配置されています。地域福祉コーディネーター（つなげ隊）を引き続き各地域 1 名ずつ配置させていただいております。

各地域の福祉活動に関しましては、助成という形で年間約 300 万円の予算をあてさせていただいて、皆さんにご努力いただいているところでございます。

平成 25 年度から制度構築を進め、平成 26 年度から立ち上げました有償ボランティア制度、通称「あいまち」ということで、活動展開いたしております。こちらの活動は平成 27 年度の活動件数としまして 486 件、平成 28 年度といたしましては、4 月から 8 月の間で 278 件ということで、年々少しずつ利用される方、また、ボランティアに参加される方が増えてきているといった状況になっております。この事業の展開につきましては、広報紙での事業周知及びホームページなどで情報発信を随時行い、皆さんにまず、この事業を進めていく上での趣旨や内容をご承知いただいて、参加していただきたいということで、啓発や周知活動に力を入れていきたいと考えております。

○小谷地域活動支援課担当係長 続きまして、同じく 6 ページなんですが、要援護者見守りネットワーク強化事業との連携・協働でございます。

この事業につきましては、大阪市福祉局の予算でございまして、こちらの事業と連携を図りまして、当該事業が作成する要援護者名簿を活用して、要援護者の把握です

とか、日ごろからの見守り活動の強化を図ってきているところでございます。この事業、先ほど申しましたが平成２７年度から開始しておりまして、平成２７年度は高齢者を対象に、地域に個人の情報を提供していいですか、どうですかという同意の確認を行ってきておりまして、今年度、２８年度につきましては、身体障がい者の１級・２級の方を対象に１２月にその同意確認を行う予定としております。

続きまして１２ページをご覧ください。２９年度の実施の方でございます。

○古田保健福祉課担当係長 先ほどご説明させていただきました住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業につきまして、平成２９年度の実施の方をご説明させていただきます。

この事業につきましては、基本的には継続した形で推進していきたいと考えております。コミュニティソーシャルワーカーを配置するとともに、各地域につなげ隊を配置させていただきまして、各地域の状況把握に取り組んでいただいて、地域の福祉活動や住民への支援を行っていただく方向で考えております。

有償ボランティア制度につきましては、互助・共助活動として、活動者や利用者が増加してきているという現状もありますので、今後も継続して事業を推進していきたいと考えております。

活動内容につきましては、多岐にわたるニーズもありますので、そちらのほうを鑑みながら、活動内容の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

上記の事業の推進を図るため、先ほども言いましたように、区広報紙等の媒体を活用いたしまして、地域福祉活動の紹介や、有償ボランティア制度の周知を図りつつ、情報の取得が困難な高齢者に向けた周知方法を検討するなど、積極的に広報活動を展開していきたいと考えております。

平成２９年度の考えられる具体的な実施の方といたしましては、先ほど申し上げました、コミュニティソーシャルワーカーの配置、地域福祉コーディネーター（つなげ隊）の配置、各地域の福祉活動に対する助成、有償ボランティア制度の定着、あと事

業内容等を区の広報紙、区のホームページ、チラシ、地域の行事や地域活動の場などで周知啓発を行っていきたいと考えております。

○小谷地域活動支援課担当係長 続きまして、２９年度の実組みの方向性ということで、要援護者見守りネットワーク強化事業との連携の部分でございます。

資料は、そのまま１２ページをご覧ください。こちらの事業につきましては、次年度実組みの方向性としては三つ考えております。まず一つが見守り活動の推進。二つ目が事業対象者の拡大。三つ目が区民への啓発でございます。

まず、見守り活動の推進につきましては、同意確認のできた区民を対象に作成した「援護者名簿」を地域や民生委員等に提供し、見守り活動の円滑な展開を進める。

二つ目、事業対象者の拡大でございますが、円滑な事業継続を図り、見守り対象者に新たに障がい者を含めるなど事業拡大を推進していく。この「新たに障がい者を含める」とございますが、先ほど申しました平成２８年度につきましては、身体障がい者１・２級でございますが、平成２９年度につきましては知的障がい、精神障がい、視覚障がい、聴覚障がい、それと難病の方を対象に進めていくと考えております。

三つ目、区民への啓発ということで、見守り事業の実組みを区民に理解・認識していただくため、さまざまな媒体の活用を検討して積極的な啓発活動に取り組むということで考えております。

右のほうですが、平成２９年度考えられる実組みといたしましては、事業対象者の拡大や、要援護者名簿にかかる同意確認、名簿の整備ですとか、区広報紙、ホームページ、地域活動の場などでの事業啓発を考えております。

地域福祉力の向上につきましては以上でございます。

○河本保健福祉課担当係長 続きまして戦略５－２ 健康づくりの支援をご説明させていただきます。

健康づくりの支援で、めざす状態につきましては、区民がすこやかで心豊かに生活できる活力があるまちを実現するために、「健康寿命」の延伸をめざす。

戦略的には、肥満者の割合を少なくするために、健康づくりの２本柱である「栄養・食生活」「運動」に関する知識、情報を提供し、健康づくりが実践できる場をつくる施策を地域団体や関係団体と協力して推進してまいります。

次の８ページになるのですが、その具体的取組みの健康増進意識の向上といたしまして、幅広い年齢層に運動習慣の動機づけや、よりよい食生活習慣を身につける機会としまして、家族で楽しんでもらえる健康づくりイベントを開催していきたいと考えております。

具体的な取組みとしまして、鶴見区みんなの健康まつり＆食育フェスタの開催を、来る１０月１日（土）、鶴見区民センターにおきまして、関係団体と連携しながら開催させていただきたいと思っております。

また、ウォーキング教室の開催を、１１月１６日水曜日に、こちらも区民センターのほうで開催する予定にしております。下記の写真につきましては、健康まつりが２年に１度ということもございますので、２年前の写真を載せておりますが、今年につきましても盛大な健康まつり＆食育フェスタを開催させていただきたいと考えております。

続きまして、１３ページに移ってまいります。

健康づくりの支援の現状といたしましては、健康寿命は男女ともに大阪市の平均よりも高いが、国の平均よりは低いという現状がございます。また、特定検診の受診率は、大阪市平均よりも高いです。国民健康保険に加入している特定検診の受診者（４０歳～７４歳）につきましては、男女とも肥満者やメタボ予備軍の割合が、大阪市の平均よりも鶴見区は高くなっております。

また、区民の健康づくりの関心は、アンケート結果などによりますと、「栄養・食生活」「運動」「生活習慣病」に向けられているという現状がございます。

課題といたしましては、健康寿命の延伸や肥満の減少には、栄養・食生活の改善や、運動の動機づけを推進していく必要があるというふうに考えております。

つづきまして、平成２９年度の取組みの方向性ですが、健康増進の意識を高め、幅広い年齢層に運動習慣の動機づけや、よりよい食生活習慣を見つける機会の提供を、各地域の取組みとの連携や、関係団体と協働して取り組みたいと考えております。

また、「栄養・食生活」「生活習慣病」「運動」に区民の健康づくりの関心が高いので、健康づくりに役立つ情報発信にも取り組んでまいりたいと思っております。

考えられる具体的取組みは、右欄の部分になりますが、食育フェスタやウォーキング講座、健康に関する講演会など、関係団体と連携した健康づくりの事業の開催。また、がん検診・乳幼児健診など、保健福祉事業での啓発と区広報紙、区ホームページ、区フェイスブック、啓発チラシの配布など、周知・啓発に取り組みたいと考えております。

以上でございます。

○久木部会長 よろしいですか。

それでは今、各担当部局から説明していただきました。戦略２－１からずっとあるわけですが、個別に聞いていただいた内容で、地域全体で支え合うコミュニティづくりということで、この件についてご意見等ございますか。

地域コミュニティの活性化ということが経営課題になっております。それに対する戦略、次はこの戦略に対する平成２９年度の取組み、この両方の観点からあるんだろうというふうに考えますが、いかがでしょうか。

時間も制約されておりますので、どしどし意見を出していただいたらというふうに思っております。

○吉江委員 この戦略２－１の地域全体で支え合うコミュニティづくり、これは私思いますに、鶴見区は鶴見緑地という非常に財産というのを持っておりますので、これをどんどん活用して、あそこでいろんなイベント、老若男女全部が参加できるような行事を。こないだの区民まつりでも非常に若い人がぎょうさん参加してはりました。本当に、どこのテントって言うんですか、そこでみんな物がよう売れてたし、若い人

が結構楽しんで参加してくれはって、ああいうもっと手軽な行事をみんなでやったらもっとみんなも集まるし、そこでまた色んな話題も交流もできるし、そうせんと、とにかく何かばらばらになって、私ども老人会でもほんま老人ばかりなんですわ。肝心な65歳ぐらいから、60からでいい言うてるんですわ、60から老人会に入れることになってるんですけども、それが65でも70でも入ってくれはりはしまへん。そんな現状なんですわ。そこらの人らも、結局家にいてはるわけなんですわ。その人らもやっぱり引っ張り出して、そういう組織に入ってもらうようにそうせんと、何にもなかったらやっぱり入りにくいんですわ、その人らも。何かやりたいと思っても、誰も知った人いてへん、ほんで入るの照れくさい、格好悪い、知らんとかいくのも何とかかんとか。それで、そういう門戸を広げて入りやすいようなこととしてあげる何かイベントをみんなでやってあげたら、我々老人会も活性化するんやと思うし、地域でも私どもの町会でも沈滞してますわ、ほんまにいうたら。そういうところも盛り上げよう思ったら、家にすっこんでいる若い人、いうても60代か70前半の人に入ってもらうようにしたら、いろんなことがまたできると思いますし、できたら私ども老人会もそういうぐあいにしてほしいなと思ってるんです、そうせんとだんだん寂れてきますのでね。

○久木部会長 今、吉江さん、老人会って鶴見区、全体的にちょっと下降してますよね、会員も減って行って。

○吉江委員 全国的です。もう大阪市の大老連で全盛期の半分切ってます。この鶴見区でも平成19年がピークやったんですわ。このときで59クラブ、4,550人ぐらいおったんかな、会員さんが。それが平成22年ぐらいからどんどんどんどん減りだして、今、平成28年の4月で29クラブ、1,930人。半数を割ってるいう現状なんです。これもまだこれからリーダー不足とか、役員になる人がいてへんとか、会員さんも若い人入ってけえへんさかい、年寄りばかりでやってる、そやから一人減り、二人減り、結局病気になりはったら減ってくんのやさかい、それと死にはって

減ってくし。増えへんと減ってくさかいに、もうどんどんどんどん衰退していきます、これは。前みたいにどんどん皆入っている活動するという時代が済んだいうのか、そこらはもっとてこ入れしてもらてね、行政のほうでもやってもらわんと、せっかく高齢者の受け皿としてつくった組織が潰れてしまいますので、これちょっと危惧しておるし、何かせんなんなあとと思って、皆さんのご協力でやりたいなあとおてるし、やっぱり地域から応援してもらわんとね、老人会何ぼ踏ん張ったからってどないもありませんのでね。そういうことで、このコミュニティづくりでも健康づくりにしろ何にしろ。

○久木部会長　　今、吉江委員からあったんですけど、これ地域活性化の課題としてどうですか。地域の中でもうちょっと活性化する案とか、あるいは今、吉江委員言ってるのは、緑地とかを利用した事業とかをもっとできないかということやと思うんですけど。方向性としてはちょっと外れていくところあると思いますが、平たく言うと老人会も活性化してもらわんと。60歳は老人違いますもんね。

○吉江委員　　ですねえ。

○久木部会長　　地域によったら若いほうですよ。

○吉江委員　　70歳でも若いですよ。

○田中（潔）委員　　ちょっとネーミングを変えたほうがいいんじゃないですか、老人会っちゃうのが。

○吉江委員　　これはねえ、誰しも言いはるんです。そやけどね、もう老人は老人なんですわ。これは隠しようがないんですわ。それはやっぱり自分で自覚してね、活動したら堂々とできる、老人やさかいにできるでしょ。

○田中（潔）委員　　私らの範疇で老人になるんですけど、老人会入ってくれ言われたら、やっぱりちょっと抵抗ありますからね。

○吉江委員　　今皆そやけど、名前変えてはりますねん。どっから部とか、何とか言うてやってるけども、やっぱりどうしても老人会は老人会やし。老人クラブですけど。

○久木部会長　でも、吉江さん、老人会の組織が、区老連、市老連そこら辺の組織がちよっと硬直化してるっていう意見もあるんですけど。何かそのお金の問題とか、そういうところもひっくるめて。

○吉江委員　金の問題もちよっと今までの甘やかされ過ぎとったいうんですか、もっときっちりと最初から言うというたらいいのを、いいかげんって悪いんですけど、それまで優遇されとったわけですね。それが助成金がぐっと締められて、法律どおりの2分の1になったでしょ。ほんなら対応しきれんとか、それを会計さんなら会計さんにしっかり教育したらよかったんですね。こういうぐあいに計上しなさいとか、お金の使い方、領収書こういうふうにとりなさいとか言うて、きっちり説明してから入ったらよかったのに、それをせんとそのままいったさかいに、領収書とっても、何とか町会とかね、ひどいときは上様で領収書とるでしょ。それを決算のときにもってきて通らん。そやからそこらの教育をしっかりせんと。

○久木部会長　ちよっと話それてしまいましたけど、ありませんか、役所のほう。

○正脇委員　ちよっと一言だけ。

老人会、吉江さん、私も老人会入ってやってましたけれど、もう脱退させていただきましたけど、結局どうなんですか、60歳以上と80歳近い人との幅が非常に大きいんですね。そやから、若い人いうのは60歳代の人は65歳まで働いておられるから、入ってこない。入ってきても上におる人が80何ぼやと、話がもう全然合わないんですね、実際。やってる行事そのものも、自分たちが考えてることと上の人が考えることと一体にならんのですね。旅行にしたって、グラウンドゴルフ一つ何したって。ですから、やっぱり今、部会長が言われたように、組織が硬直化してんのと、やっぱりリーダーが回転するようなシステムつくらん限りは、恐らくもう衰退していくと。うちらでもまだありますけど、入ってこないから、どんどんどんどん減ってくる。上はどんどん変わってっていきますけどね、もっとスピードアップして変わっていったら、20以上も年齢差があれば、話が全然合いませんよ。

○吉江委員　そこへ若い人が入ってこられたらいいんですわ。そしたらそのリーダーもかわっていただけるんですわ。若い人が来てくれへんさかい、どうしても年寄りがまたやるになってしまったり、とにかくその若い人が入ってくればったら、老人会も変わります。また考え方違いますので、８０歳の人と７６歳と違うんやさかいね。だからやっぱりどんどん新陳代謝言うんですか、それがないとね、そうせんとこのままではほんまにもう衰退の一步っちゅうんですか、発展してほしいんです。

○正脇委員　会計も難し過ぎる。

○吉江委員　それをきっちり説明せんさかいにこうなっている。教えるさかいに。

○久木部会長　これからちょっと吉江会長に頑張ってください、老人会を活性化していただく。まだまだやっぱり健康でおってほしいですし、ぜひぜひ。

ほか何かありませんか。経営課題２に対してのご質問、あるいはちょっと聞きたいというところありましたら。

○西村委員　私、仕事でほかの大阪市のまちづくりの講座とかを受けさせていただく機会があるんですけど、そこに集まっている方は、決して地域にかかわっている方だけではなくて、地域にかかわりたいけれど何をしていいかわからない、入りたいけど入れてないっていう人が結構たくさんいらっしゃっていて、その方に話を聞くと、大半の方が、活動が地域に入って何をさせられるのかがわからないから怖くては入れないっていうのと、あともう一つは、誰に言ったらどういうふうに入る手続きが済むのかがわからないっていうのが大きな課題だなあというふうに、いろんな話を聞いて思ったんですね。なので、その活動内容が、例えば青パトに乗ってくれる人が欲しいんやとか、地域では結構そういうのがはっきりしているところもあると思うんですけど、それがなかなか上手に発信できないっていうのと、そのやりたいて言う人と、地域がこれを手伝ってほしいっていうのをあまりマッチングできてないなっていうふうに思っていて、地域でそういうことができれば一番いいんですけど、例えば、私が話を聞いた世代はパソコンを使える世代のお父さん、お母さんぐらいの世代だったの

で、ボランティアとか活動したい人として欲しい地域とつなぐような、今ボランティアのマッチングサイトいっぱいあると思うんですけど、私も地域で使って、いろいろボランティアさんに来てもらったりしてるんですけど、そういうのを区全体でつくってみるだとか、そういうもう少しやり方を変えてみる、広報誌ももちろん広く、どの世代の方にも読んでいただけるのでいいとは思いますが、パソコンだったりとか、そういうマッチングサイトをつくるだったり、そういうふうな考え方も一つあるのになってというふうに最近感じています。

○久木部会長 まさに、ちょっと僕も今日、話しようかなって思った。

それに絡んでくるんですけど、これ最後に1回まとめて、そういう問題ひっくるめてやりたいなって思っているんですけど。ちょっとだけ預らせてもらって。

この経営課題2についてなければ、経営課題5に移りますけどよろしいですか。

それでは経営課題5のほうに移らせていただきます。

健康で安心して暮らせるまちをこのようにやっていきますよということで、先ほど説明がありました。これについてご質問等があればお願いいたします。

これちょっと教えてほしいんですけど、小谷係長、要援護者の情報出してもらいますよ、地域でそれを把握しますよということで活動してると思うんですけど、これ当然ながらいただいた資料で、地域は地域でほとんどが高齢者、あるいは要援護3とか4とかっていう方なんで、見守り等が当然地域で必要なんだと思うんですけど、それは今ちゃんとできているんですか。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長 そうですね、何らかの形といいますか、声かけまではどうかっていうのもあるんですけど、声かけをしにくい方とか、そういったところについては、例えば遠くから郵便ポストに新聞紙がたまってないかとかですね、ふだん電気がついていないのに、この時間帯電気がついていないとか、そういった形も含めまして、全地域、何らかの形でやっていただいているのかなというふうには思っております。

○久木部会長 それは区として連合ごと、あるいは開示した相手先とコンタクトと
ってもやってるのか。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長 この事業自身が区社協に委託というこ
とで、そういった区社協との情報交換というのもやらせていただいています。直接、
地域に出向いて、全部が全部回ったというのは、すみません、まだ私自身できてない
のですが、区社協の情報交換、意見交換の中では、そういったところはお聞かせい
ただいております。

部会長おっしゃっておられるように、実際に私どもも地域でどういう状況ですかと
いう確認は、やっぱりする必要があるかなと思いますけど。

○正協委員 そういったらあれですが、該当する必要のデータは全部あるわけ。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長 そうですね。

○正協委員 そのうち、同意者だけ民生委員とかそういった人が訪問していったい
うことになっていきますけども。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉担当係長 そうなんです。いいですよって言う、
その同意のご返事いただいた方のみ、地域の方や民生委員の方に見守り活動をお願い
しています。

○正協委員 少しの知識ですけど、同意した人は別に来てくれんでもよさそうな
元気な人が同意しますよ。ここのところもごっつい問題あるのや、実際はね。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 一応ですね、大阪市としてこの方、
普段の見守りが必要やという一定の基準がございますので、普段元気にされている方、
そういった方は除外ということですね。高齢者でも、要介護３以上ですとか要介護２
以下で認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の方、そういった方が基準というのが一
応ございます。

○田中（潔）委員 対象者を一応役所として把握してるということと、同意が必要
なんですね。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 そうですね、はい。個人情報ですの
で。

○田中（潔）委員 その割合というのはつかんでおられますか。例えば、100人
おったと、役所がつかんでる人、同意はされた人が何%ぐらいとか。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 ちょっと調べてみないと何ですけど、
例えば昨年度の平成27年度、同意確認郵送した数が2,075件です。そのうち、
同意、不同意も含めて、1,576件という数が返ってきております。大体パーセン
テージで申しまして約70%が同意ということで返事のほうが返ってきております。

○田中（潔）委員 25%の人が返って、要するに何もないんですね。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 1,576件返事がございましてね、
で、同意しますというのが約900件、917件だったと思います。その方たちが私
の情報渡していいよということで返事のほう、平成27年度ですけどされております。

○田中（潔）委員 それはもう同意しないとか、あるいは返事がない人に対しては、
そのままになるわけですね。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 不同意の方につきましては、やっぱ
り無理やりといいますか、同意に持っていくことは非常になかなか難しいかなと思う
んですけど、ご家族の方が面倒みられる方もおられるということで、不同意にされる
方もいてるんですけど、返事のない方につきましては、見守り相談室からご自宅のほ
うに訪問をしまして、もし会えればですね、こういうことを取り組みしてます、どう
しますかっていうことで、2度、3度ぐらいは訪問してですね。

○田中（潔）委員 全くほったらかしではないわけですね。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 そうですね。例えば平成27年度に
アクション起こして会えない、そういう方がおられましたら、次年度、平成28年度
も同じように同意確認の文章を続けて郵送するというようなことでやっております。

○田中（潔）委員 最初にちょっと申しわけない、長くなって。もう最後にします

けど、鶴見区で去年一年間、孤独死というのは何件くらいございました。

○久木部会長 それ多いですよ。

○田中（潔）委員 それはつかんでおられない。

○小谷地域活動支援課兼保健福祉課担当係長 そうですね。

○田中（潔）委員 要するに、その不同意の人が孤独死していたと、そういう実態になるんじゃないかなと思うんですけどね、何件ぐらいあるかなと思うんでちょっと質問。

○久木部会長 多分これは警察のほうがよくつかんでいると思いますけど、鶴見もかなりあります。ちょっとこれもお話するんですけど、今でこの状況なんですけど、これが2025年、2050年になったら、こんな数字じゃ全然済まないです。だから、区もそうですけど地域も緊急の課題でですね、何かこれに取り組んでいかんと、ほんまに大変なことになっていくんじゃないかなと。現状ですらこういう状況なんですけど、私もいろんな会議にも出てるんですよ。先月ですね、厚生省のそういう会議もちょっと出させてもらいました。この問題についてはやっぱり東京はもっと危機感もっています。大阪も結局同じことなんですけど、地域だけで恐らく解決できる問題じゃないんですよ。だから今、やっぱり行政も地域も一緒になって、この問題に取り組んでいかないかんですけど、今のこの内容ではどうなのかなというふうに実は思っているんです。コミュニティソーシャルワーカーとかですね、あるいは、鶴見区の場合、地域コーディネーターですね、そういうものもつけてやっていく、なんですけど、この前も、いろんな社長さんも入っていましたが、その会議にも出させてもらったんですけど、やはり場当たりのです。目先の対応にはやっぱり過ぎている、長期的にどうしようという戦略が一つもないように実は思っているんです。これは嶋原課長にも口酸っぱく言っているんですけど、嫌がられとるかしらんけど、もっとやっぱり区はですね、主体的にかかわっていかなあかん問題やないかな。そういうことで、今日区長も見えているんで、さっきの西村委員の話にもつながるんですけど、我々地

域も変わらなあかんですけど、区役所もやっぱりちょっと変わってもらわなあかんのやないかやなかというふうに思っているんです。どういうふうに変わるかという、別に組織を変えてくれというわけではないんですけど、地域を支えていくようなチームをつくってもらって、例えばこれ、地域活動支援課だけでやっていける問題ではないんで、こういう問題ですから福祉でやるといっても、福祉だけでこれまたやれる問題じゃない。やっぱり地域活動支援課も福祉も、あるいは子ども、それから社会福祉協議会も入ってですね、まちづくりセンターも入ってもらう。そしてソーシャルワーカーとかできていますから入ってもらって、みんなが入ってもらったチームをつくって、このチームが区長の直轄で区長のトップダウンでやらんと稼働、動かんと思うんですけど。そういうことをつくって対応していかんと、この福祉の問題、あと地域の自律、地域と言ってもこれ、いいこといっぱい書いてくれていますが、これじゃあ具体的にどうするんだという、具体性一つもないんですよ。その地域を支えていくのにどうするのやという、やっぱり地域に地域独自に組織つくってもらわないと、地域動かれへんのですよね。つなげ隊も大事ですけど、地域の中にしっかりした組織をつくってもらう、その組織づくりを区役所とかそういうチームで支援してもらう。これが一番手っ取り早いんだらうと思うんです。

もう一つは、先に西村委員が言われたように、あっちこっちで聞く話は、やりたいたけど、どこに言ったらいいのかという話。これなかなか、自分が住んでいる町会に言えないんですよ。どこに一番言いやすいかというと、区に受け皿があったら言いやすいんです。だから、区役所に地域を支援しますよというチームをつくって、そこにもボランティアの人はどんどん言ってきてください、その地域紹介します、どんなこと、どんな仕事でも紹介しますみたいな、そういう受け皿をつくってもらってですね、ボランティアの人も非常に入りやすい。これはぜひ一回、区長のご意見もいただいてお願いできんかな。そうしないと、警察署長と話していたら、ほとんど毎日見ますみたいな感じです、孤独死は。それぐらい多くなってるってことなんで、ぜひ

一回ご検討お願いしたいなと思うんですけど。西村委員が言われているのもそういうことですね。要はどこに言ったらいいんやみたいな話があってということだと思うんです。

○田中（潔）委員 ちょっともう一つよろしいですか。コミュニティソーシャルワーカーっていうんですか。これ3名任命されて、活動しておられるということですけど、個人情報のいろいろ問題もあると思うんですけど、言える範囲で結構ですけど、3名がどういう方かということのをちょっとさわりでも教えていただけたら。例えば年齢でも。それと、どんな資格をお持ちなのか、それから今までどういう経歴をお持ちなのか、そういうことが、ちょっとでいいんですけど言える範囲で。

○古田保健福祉課担当係長 3人の方ですね、女性が二人、男性が一人となっています。それぞれ、あいまちだよりとかにご案内させてもらっていて、PRというんですか、私たちがソーシャルワーカーですよということのPRも結構していったほしいということで、先日ちょっとお願いしたところでもあるんですけども、地域の方もどんな方がそのソーシャルワーカーさんなのかということわからなければ、訪ねようもないやろうと。人と人の付き合いになっていきますので、言いやすい、言いにくい、いろいろ出てくるのかなと思いますので、PRしていったねということは、先日ちょっとお伝えさせてもらって、その方向でまたご案内差し上げる予定をしています。3人のコミュニティソーシャルワーカーが、それぞれ福祉にかかわる資格や介護の事業所に従事しておられたり、福祉の専門学校に行かれて専門的な知識を得られておられるというところで、面接して採用しております。年齢的には皆さんお若いです。30代です。3人が地域に行かれているんですが、まだ半年ぐらいなので、なかなか地域の方とのコミュニケーションをとるのが精いっぱいの状態になっておられるというところではあるんですけども、どんどんと地域の皆さんとお声をかけあいながら連携していきたいというお話をお伺いました。一応、10月か11月ぐらいには、コミュニティソーシャルワーカーさんだけではなくて、つなげ隊さんのご案内のチラシであ

るとか、また一方で継続的に有償ボランティアのお願いも含めて案内を差し上げる
ことができると思いますので、ちょっとお楽しみにしていただけたらなというふうに思
います。

○田中（潔）委員 恐らくキーになってくださる方ですね。

○古田保健福祉課担当係長 そうですね、はい。

○田中（潔）委員 当初は、去年ですか、議論したときに、久木部会長からも何か
言われた記憶があるのは、地域との連携とか力のある人やないとあかんと、そんな
ことを言われたような気がするんで、特に連合町会の町会長とか町会長補佐あたりと
ですね、もっと強く入っていける、そういうコミュニケーションを図れる人でやって
ほしいっていうのが。

○久木部会長 今、田中さんが言われたの、まさしくそれなんですけど、やっぱり
ね、何ぼコミュニティソーシャルワーカーさんに腕があっても能力あっても、地域で
するとなるとですね、直接行って恐らく無理ですよ。そうするとやっぱり地域活動
支援課の協力を得て、一緒にやっていかないかんということになるんですよ。だか
ら僕はそういうこともひっくるめて、さっき言ったように、地域活動支援課も入れた
そのチームで、地域支援プログラムというのをつくる必要があると思うんですよ。そ
のプログラムに従って、今年はここまでやる、来年はここまでやる、全体的に3年計
画でこういう組織を地域の中でつくって、地域でも独自にやっていただきますよと。
恐らく区がめざしておる到達点はそこなんで、今やってる仕事を、区ができなくなる
仕事を地域にやっていただく。そこなんで、それはね、やっぱりプログラムを出して
住民に直接協力を求めていかないと、今のこの内容ではあかんと思うんですよ。せっ
かくつくっていただいて、いやこれ悪くないんですよ。区がやる事業としてはほんま
よくやってるんです。ただ、これを地域でやっていただくときどうすんねんっていう
その具体性が欠けてると思うんです。僕いつも言うてんですけどね、そうやないかな
というふうに思うんです。だから国のほうも具体的に何しよう、何月までに何しよう、

今年、何しようみたいな形で動いてるんで。やっぱり我々鶴見区もですね、そういう方向で動いていただければ助かるなと思うんですけど。

笹原委員、何もおっしゃっていませんが、どうぞ。

○笹原委員　やっぱり机上のね、何かこう皆さん案ばかりっていうのかな、事務所をつくったり何かこうしてるんだけど、町へ出て会う人がいないね。区役所の人と会うことがない。もっと一昔前は、おうちへ入れる、今、個人情報の壁だとかなんとかいったけども、おうちへ上がれる人、だから民生委員さんでも玄関までとかなってるけども、中で、どう、何してるっていうふうに上がれる人っていうのが前はあったのね。子どもの支援でも、主任児童委員はここまでけども、家庭支援員は中へ入って子どもとかかわれたりとか、そういうふうな組織づくりというのがだんだんなくなってきて、地域で区役所の人とか、包括の人でも訪問とかっていうのがほとんど何か消えていってる。それを全部地域に地域にと行って、地域のつなげ隊からいろいろ勉強会もしてるけども、やはり区役所の人たちも一緒になって地域に出ていっていかないと、もう本当に取り残されてしまうっていうのが。高齢者とかそういう外へ出たくても出られない。集まる場所を提供するっていう、こういういろいろなイベントに行ける人はいいんです。でも、行けない人のところへ全然スポットライトが当たっていかないっていうのは、やはり訪問、戸別訪問なりっていうのができる体制の人っていうのはやっぱり、ソーシャルワーカーも必要なんだけど、その人がその地域のおうちへ訪問して会話ができる、中へ入って物事ができるかっていったらやはりできない。そういう枝葉というのはすごく大事じゃないかというのは、考えられるんですね。私、ボランティアというのは絶対無償だって連合会長にも話したんですけど、それでは一方的だと思って、今回、有償ボランティアに加入したんですけど、この有償ボランティアというのは本当にすばらしかった。利用しましたけども。こういうふうな一つ一つのそのおうち、個別でかわれるものっていうのが、今すごくなくなってる。そういうのをするのが嫌だからマンションに住もうとか、かわりたくないからってシャ

ッターをおろす人が地域にすごく多くなってる中でね、やっぱりそのおうちへ訪問できる。そういうネットを使いながらも、情報を吸収できて、ここへ言っていけばいいんだなっていうふうな、ネットづくりでも大切なんだけど、おうち、戸別訪問っていうのは全然なくなってるなって。

○久木部会長 それは区の人がっていう。

○笹原委員 区の人。

○久木部会長 それはもうまさしくそうなんですよ。

○笹原委員 だから地域に地域にっていうからね。地域の人、ここのお子さん、あそこのおじいちゃん、おばあちゃんてこう結構ネットをもってるんですけどもね、上の人がこういう素案をつくっていく中で、結局その地域を知らない。緑地域ってそういうえばあのあたりはやっぱり独居の人多い地域とか、マップでもね、ここら辺はこういうお年寄りがおる、ここら辺は障がいもった人がいてるな、ここは障がい者施設あるなとか、そういうふうな中で、皆さん自転車でこんにちわって出会ってたな、前はね。今は本当に出会うことがない。区役所へ来れば出会う、イベントがあれば出会う、ああ区役所の方やねっていう感じなんだけど、やっぱり戸別訪問しないと絶対だめだと。

○久木部会長 意味はね、すごくわかるんですけど、要は、今、笹原さん言われたこと、まさにそうなんです。というのは、やっぱりお金も人も物も少なくなってるから、行政として昔のようなサービスを担保していくことができない、だから地域がどうやってカバーしていくか、地域が独自で考えて、何ができるかというのがまさしく、ここを考えていかないかんとこなんですけど、そういう訴えかけというかそういうスキームというか、そういうものが我々もできてないけど、区のほうもだからってできてないような気がする。どうですか、ちょっと意見あったら言っていただいたら。ちゃんと意見あったら言ってください。いやもう、どしどし言う。そのために皆さん出てきてもらってるんですから言ってください、そうでないと、区政会議なんて活性

化しませんから。そりゃもう地域の一方的な意見や、私らも人数も必要なのに、何で
できんって言うたらよろしいやん、それ。言ってください、ちょっと意見を。

○笹原委員 人数が少なかったら、やっぱりおっしゃったように、その動ける組織
を。本当に何で家庭支援員とかのあれがなくなっちゃったの。これなくなっている
んだらうけども、もっとネットを広げるってあそこ言ってはったのね。緑地域にも
家庭支援員、どこの地域も鶴見区全部で家庭支援員をつくるためについて私はお聞きし
てたのね。そのネットって絶対大事ですと、おうちの中入ってね、支援ができる人が
いなきゃだめだと言って、そのときはすごく納得したんです。

○久木部会長 古田係長どうですか、反論を。

○古田保健福祉課担当係長 反論。

○久木部会長 そやないと、活性化しません。

○古田保健福祉課担当係長 先ほどおっしゃっておられること、私自身もそうだな
というふうには思います。ただ、区の正直な意見としてみると、区役所の職員も地域
に出て行って、地域の方々と一緒に活動できる場面もたくさん増やしたいなと思う
んですけれども、何せ人数も削減されているというところもありますし、行政のほう
としてもちょっとつらい事情もあるところなんです。事業を展開するだけが行政の仕
事ではなくて、制度の運営をしていくという、そこにも職員が必要になってきますの
で、全部の職員が一斉に行けるかという意見はなかなか難しいところかなというよう
に思います。そこの区の職員ができないところを、こういったいろんな事業を展開す
る方策として委託であったりとかいうことで違う手だてを考えつつ、少しでも皆さん
と連携していける体制づくりはないかというふうな模索をしているところです。そう
いう意味で、なかなかちょっとおっしゃっておられるような、地域のご家庭の中に入
って行って様子を見させていただくという機会は、本当に少なくなっているんだなという
ふうには思いますけれども。

○笹原委員 この有償ボランティアがもっと輪を広げていくっていうこと。

○久木部会長　有償ボランティアも、さっき質問しようと思ってやめたんですけど、これやりますと立候補する人と、有償ボランティアお願いしますと言う人、これ両方入れて２７８件ですか。

○古田保健福祉課担当係長　会員登録されておられる方ですね、両方です。

○久木部会長　両方入れてでしょう。そうすると、まだまだですよ、状況としては。だからこれ全体的にね、地域活動支援課の役割って大きいんですよ、今言ったように。地域とかかわりあうその接点、窓口はやっぱり地域活動支援課なんですよ。だからこれは地域活動支援課で、それだけ大きい荷物、俺ら背負えへんなら背負えへんて言わなあかんと思うよ。だからね、それでこういう資料つくれって言われたら、やっぱりこういう資料になるんですよ。区としての事業は一生懸命やってるんですけど、地域に対する落とし込み、計画もちょっとはつきりわからん、プロセスもわからん、まして時系列的にいつどうやるのかという、それもわからんではやっぱり、言葉はすごいんだけど、地域はこれでほんまにできるのかなっていう不安を持ってくると思うんですよ。そこら辺をやっぱり考えてほしいなっていうふうに思うんです。ちょっとこればかりやってられないんですけど、何か意見、西村さん、さっきのもひっくるめて。

○西村委員　今の話とはちょっとはずれるんですけど、障がい者の話があまり出なかったんで、その件についてなんですけど、内部障がいのある方が講座を受けている仲間にいまして、変な話ですけど、障がいに関してそういう興味を持つ、触れることがなかったんですけど、その仲間にあたっていることすごく興味をもつようになりまして、この課題とか取組みとかを見させていただいたら、区民への障がいに関する理解の啓発活動っていうのは見られるんですけど、例えば障がい者の方を地域に入ってもらって、一緒に活動することによって、障がい者の方への興味って言ったら変な言い方かもしれませんが、関心がわくとか、そういうふうに仲間になることによって関心が生まれるっていうことは大きいと思うんです。私も例えば、内部障が

いのある方の講演を聞いてたら、別に関心を持ったかと言われるとそうでないと思うので、その仲間にいたから関心を持ったということがあったと思うので。地域ではライトハウスさんと一緒に、放置自転車なくそうキャンペーンとかの活動をさせていたでいてるんですけど、その中でやっぱり会話も生まれますし、そういうふうにとんどん事業所さんとかに声を、例えば区役所のほうからかけてもらったほうが、地域からかけるよりは動きやすいのかなというように思うので、もしそういうことが可能なのであれば、とんどん地域にそういう方を、一緒に活動する人として、入れていただけたらありがたいかなというふうに思います。

○吉江委員　今の戸別訪問のときの話なんですけどね、戸建ての家のところは割としやすいんですわ、入りやすい。これが市営住宅とかマンションとかであるところは、団地のところかというと、扉が閉まったらもう隣近所でもシャットアウトということになりますし、行きにくいし。戸建ての家のところはいいんですけど。昔は戸建てのときは、向かい3軒両隣そういうつき合いはしとったんですわ、お互いに行ったり来たり。ほんで病人がおったらお手伝いに行ったり、葬式あったらみんなでお手伝いしたり、そういうコミュニケーションをとってたんですけど、これがもうこういう時代になってきて。初め老人会も新聞は全部手渡しやったんですわ。必ずノックして出てきてもらって渡す、それで安否確認もしとったんですわ。これが10年ぐらい前からお互いに煩わしいっていうことになってね、もうぼんと放り込みだけになって、現状なってるんですわ。それでそのかわりとして、近所の清掃奉仕を毎月第4日曜の朝8時からやってると。これは掃除は二の次なんですわ。とにかくみんなが朝8時に顔合わすと。ほんでまあ、しんどい人やったら帰ってもらうとか、用事のある人は帰ってもらう。で、後は簡単な掃除だけ済ませて、そういう活動もしてるんですわ。それもだんだんと減ってる。ということは近所づき合いとか地域のつき合いがだんだん疎遠になってるわけなんですわ。昔は町内会づき合いしてるときは、割と交流しとったでしょう。今はもうそういうつき合いがないでしょう、町会でも。班長さんなどもみんな嫌やと

か言うて、飛ばしてとか、ご主人いてるときあかんとか、ほんでその班長さんももう、回覧板ぱっぱと回すだけとか。ほんまは班長さんやったら自分の班ぐらい安否確認せんとあきませんね。それが今はもう、みんなだんだん人間が薄情になったというか、つき合いが希薄になったというか、そんな時代になってきておりますのでね、そこはやっぱり行政も我々もみんなで考えてね、そういうつき合いをもう一回戻すようにね、町会でも何か活動すると、みんな集まって何かすること、気軽にできることを。集会所を何ばか開放して、碁でもしてください、カラオケでもしてください言うても来ないんですわ。

○久木部会長　吉江さん、一回、そういう取組みをテーマにまたやりましょう。

○吉江委員　はい、こちらこそぜひ。

○揚保健福祉課担当係長　先ほどの西村委員のお話に関しまして、「つながろうふれあいフェスタ」に出場された障がいをもつグループの方がいらっしゃって、地域とつながりたい、仲間を増やしたいとおっしゃってまして、またほかの団体も活動の場を求めてらっしゃったので、ぜひ今度、地域の皆さんにお声がけできたらなという話もがちょっと上がってたので、またいろいろご提案させてもらえたらと思っております。

○西田保健福祉課福祉担当課長代理　それともう1点、先ほどの「つながろうふれあいフェスタ」をやっていて、障がい者の団体等に出演していただいているんですけども、やはりフェスタの中でやりますと、仲間内のような方が集まってしまうということがありますので、もしできるならば将来的な話なんですけども、もっと大きな区全体のイベントなどにそういう方々の枠をつくっていただいて、そういうところに出演していただく、そういう機会をつくっていききたいなというふうにも考えております。

○久木部会長　それでは、あともう一つの議題ですね。健康増進意識の向上ということで、鶴見区みんなの健康まつりや食育フェスタ等、先ほど説明ありました。これについてご意見等ございませんでしょうか。笹原さん何かありませんか、食育フェス

タももうすぐでしょうし。ここでアピールとか。

○笹原委員　そうですね、食育フェスタと、今回は健康まつりがあるんですけども、すごく何かジレンマを持ってるのは健康まつりで、医師会さん、医師の方が、私たちこうやって予防とか地道にやっていこうと思って、事前に予防するための手だてとか何かいろいろありませんかって言ったら、いや、なったら手術したらいい、なったらそれを治療するのが僕たちの役目やから、別に予防というのは全然考えてないって、ぼんと戻されたのね。だからそこで、私たち予防のために一生懸命、普及啓発活動してるのに、そこに医師の方一人でもいいからね、予防のために立ち上がってくれる人はいないのかっていう、ここが何かすごく…。

○田中（潔）委員　もう客増えるって言うんですか。

○笹原委員　いや、だから違うんですよ。医師にとったら来てもらわなあかんから、予防っていうのはない。現実的には無理なんだろうけども、じゃなくて意識としてね、長野県の鎌田さんみたいな人が鶴見区にいないんだろうかと思って、声かけしたりしてるんですけど、どんなもんですかね。やっぱり私たちが逆に医師の邪魔をしていることになるのか。

○久木部会長　いや、そんなことはない。医学的にも予防医学ってあるんで、そんなことはありません。

○笹原委員　だからその医師の人を、どこか鶴見区でこの方というのがいらっしゃったら、その人たちとタッグ組んで、鶴見区は今、メタボとか肥満とかがあって、そういうものに一つに取り組めるというのが願い。食育フェスタでも、今回はよく嚙んで味わってとか、そういうふうなテーマをずっと持ってやってるんですけども、鶴見区としてこういうことをというのがね、そういうタッグ組める大きな柱が欲しいなと。

○久木部会長　いい意見ですね。

○河本保健福祉課担当係長　食育の取組みは「すこやか大阪21」という大阪市の

健康増進計画に基づいて進めておりまして、その健康増進を進めるための大きな方策として、食育とか、栄養も進めていきたいと思いますというのが鶴見区の重点施策で、決して大きな柱がないわけではありません。大きな命題があってその中で、大事なものとして食育を進めています。おっしゃるようにお医者さんとか医師会の方がどういうふうな話をしたか、ちょっと僕も存じ上げませんけども、講演会でありますとか、あるいは食育フェスタ、大阪市がやる食育フェスタでも、食推協さんに参加していただいてやっておられますよね。今度イオンでおこなう食育展のようなものでも、当然、講演とかいうことは出てくる話ですから、おっしゃるようないわゆる予防、メタボにならないとか、そのいわゆるメタボとか肥満を少なくするというような部分の取組みにつきましても、どんどん積極的に広報していけばいいですし、食推協さんや、区の食育連絡会の協力を得ながら進めていければいいと思います。

○笹原委員 医師の方にね、一緒にやろうってほんと出られる人はいないのかと、そこらあたり、ちょっと何人かは当たったんですけどもね、やっぱり。

○久木部会長 相手が悪かった。

○笹原委員 すみません。

○久木部会長 ほか何かございませんか。全体通してでも結構です。まだもうちょっと時間あるんで、おっしゃっていただければ。

○笹原委員 地域の施設を充実してほしいというのを、前もお願いしたんですけども、結局区役所でやる事業に出てこれない人は、やっぱり、食育活動なり普及啓発をそれぞれの地域でやりたいわけですよね。でもその施設が全然充実されてない、だから今のところ学校の施設をお借りして。

○久木部会長 いや、充実してますよ。ちゃんとそこと連携とったらできますよ。

○笹原委員 今のところ緑だけでしょう。

○久木部会長 いや、他でも。

○田中（潔）委員 ふれあい喫茶なんかは。

○久木部会長　　鶴見北もできますよ。できないとこってあるのかな。やっぱりそういうところもあるの。

○笹原委員　　いやできないっていうのは結局、食推はともにつくって食べようという事で、それぞれの会員は検便をしてないわけです。

○久木部会長　　ああそういう意味でね。

○笹原委員　　自己申告、だからその施設が使えないんですよ。

○久木部会長　　河本さん、それはそうなんですか。

○笹原委員　　緑だったら食事サービス、喫茶とかありますね、それは自分たちがつくって来られる方に提供するから、私たちは全員、検便しますよね。それでオーケーという形でやってるけども、食推はともにやる、私たちもお手伝いするけども、来た人本人が調理実習して食して、その中でお互い学び合おうという形で普及啓発をやってるんで、検便はしてないんです。だからそこで私たちが、緑のふれあいの家の調理実習室を貸してくださいって言ったときに、それはだめなんです。私たちが全部一緒にともにやろうって言って、その食器類を使うことは、ちょっと前まではよかったんです。でも今はもうきちっと、これは食事サービスのブースとなってるのと、それは検便した人が使い提供する。提供と思いやるってことの違いでね、施設が使えないんです。

○河本保健福祉課担当係長　　例えば区民センターの調理実習室とかでしたら、皆さんで使っていただくのは検便なくてもできると思うんですけど。

○笹原委員　　あれとか栄養室でやるのはいいんですよ。でも私たちは、高齢の人で出てこれない、でも地域でやってあげると、そこには集まれるっていう人に対しての事業を進めるべきだと思って、ずっと考えて少しずつやりつつあるんですけど、それが壁なんです。だから施設は充実してますよというんだけど、その充実したものは使えないんです。

○久木部会長　　でも食推は、例えば地域でそうやって料理を提供しますよと、そこ

に食推の人が栄養とかあるいは健康のバランスとかを考えて情報を提供して、そこと連携してやるのが一番いいんじゃない。

○笹原委員 お話をさせていただける、お話はできるんですか。

○久木部会長 でも、それ一番いいじゃないですか。

○笹原委員 ともにつくって、やっぱりつくることってすごくて。

○久木部会長 でもそんな高齢な人つくれます、料理とか。

○笹原委員 つくれます。90歳の人でも参加されています。だからその人たちがもう出て来れない、でも地域で一緒にやってくださったらできるんですって。だから今津はやっておられます。だからね、その地域の人々の要望と私たちがやろうとしてることは、そこがね、うまいこと回っていかないんですね。

○久木部会長 なるほど。

○笹原委員 その壁はちょっと大きいですね。

○金森保健副主幹兼保健福祉課担当係長 提供する施設等おっしゃっている保健の健康づくりの観点からの実習つきの健康づくりといったサービスです。

○久木部会長 実習室ですね、要は。

○金森保健副主幹兼保健福祉課担当係長 やり方もあるかなと思いますけど、おっしゃっているように。

○笹原委員 今、部会長さんがおっしゃってくださったように、私たちが言葉の提供とか資料の提供はできるんです。だからステップ教室なんかは一緒にやらせていただいて、お話させていただくことはできるんですけど、何せその普及啓発活動の食に関してともにつくっていったことは地域でなかなかできない。

○久木部会長 それは一つの課題ですね。

○笹原委員 だからそこらあたりを。やっぱりそれは一線がありますよね。

○河本保健福祉課担当係長 そうですね、施設自体、地域で活用されている場所です。なので、例えばそこで何かトラブルがあったら心配ということでは。

○笹原委員　　そういう施設で、もし食中毒になったときなんかは困るからやめとい
てくださってということなんですけども、じゃあ私たちが全部検便してオーケーであ
ればいいのかと言ったら、地域はそうでないと思います。

○久木部会長　　地域はでも、うちらなんかでも、木曜日と日曜日以外は空いてるん
ですから、それはもう使っていただくのは全然やぶさかでないですよ。ただそういう
いろんな制約があるのは知らなかったけど、そういう制約があるのであれば、一回検
討してみなあきませんけど。

○田中（潔）委員　　それもそうやけど、厳密に言えば、やはり食品衛生法とか何か
いろいろややこしいことあるんでしょう。

○笹原委員　　ありますね。

○田中（潔）委員　　だから、ちょっと聞いたことがありますけどね、ふれあい喫茶や
ってるけども、もっといろんなメニュー増やしたいけど、それはでけへんねんと。そ
ういう話は聞いたことあるんですけどね。

○久木部会長　　ちょっと一回、検討課題とさせていただきます。

ほか何かございませんか。よろしいですか。

今日いろいろ申し上げましたんですが、これで本日予定されている議題について
は全て終了いたしました。今日も活発な意見いただきました。吉江さんも意見いた
きまして、またいろいろ課題もいただいたというふうに思うんですが、またぜひちょ
っと機会見つけてやってみたいというふうに思います。

それでは、ここで河村区長、ずっと言いたいのを我慢してはったと思うんですが、
一つよろしくをお願いします。

○河村区長　　今日は遅い時間から長時間お集まりいただきありがとうございます。
実質的にはですね、平成29年度に向けての議論をする初めての機会ということでご
ざいました。また、吉江委員には初めて参加していただいて、高齢者施策の立場、老
人会をどうしていくかというような観点からお話をいただきました。いろんな地域、

団体の高齢化の問題はですね、老人会だけの問題ではなくて、いろんな団体に抱えておられる問題だと思います。我々もそこをいかに活性化するか、若い人に入っていくということ、ここにもありますように中間支援組織、それから支援ですね、やっていくわけなんですけども、やっぱり言うは易くやるは難しというところがあって、なかなかできない動きがございまして、田中委員もおっしゃっていただきましたけども、やはりどういうふうな工夫をしていくかということ、各団体でも取り組んでいただくことかなというふうに思います。名称を変えるとかいうのもあるでしょうし、老人会という言葉は置いといたとしても老人会は括弧であって、例えばシニアアクティブクラブとかいうような名前ですら少しでも入りやすいようにするというのもあるかと思っています。我々行政もそういういろんな人に、若い世代も含めて入っていただく工夫はしたいと思いますが、各団体のほうでも、いろんなことを考えていただければというふうに思っております。その辺をまた一緒に考えて、これは永遠の課題ではないかと思いますが。それと今後の鶴見区の地域活動支援、健康福祉も含めた組織のこともいろいろ、部会長を始めおっしゃっていただきました。我々も、我々もというか、地域でもいろんな各種団体の方いらっしゃって、高齢の方もいらっしゃれば障がいの方もいらっしゃる、そういう意味で昔に比べると地域のニーズというのも膨らんでますし、我々がやる行政の範囲も数年前に比べたら格段に拡大してきてるんじゃないかなと思います。そういった中で、我々がしないと言ってるわけじゃないんですけど、できる範囲というのもやっぱり限られていまして、ご存知のとおり、区役所も数年前と比べれば人も予算も激減しているというような状態の中で、いかに費用対効果を満足するような形でしょうかというところでやっています。そういう意味で、もちろん我々もさることながら、地域の方と一緒にですね、その辺を補完し合いながら、何が足らんのかということと一緒に考えていかねばならないわけで、そういう意味でも、この部会が地域コミュニティと地域福祉がセットになったというのが一つのきっかけで、そういったことを議論するいい場かなというふうに思っております。た

だ、地域活動と福祉だけではないし、ほかにも子どもの施策の問題であったり青少年の施策であったりいろんな課題がありますけども、福祉、健康福祉とリンクする部分もある意味では多いのかどうなのかなというふうに思います。部会長がおっしゃっていただいてるように、そこで役所の中もどうやってその辺の連携を図っていくかというのも、我々も兼務をかけたりとかいろんな連携方策を考えたりはしてるんですけども、なかなかその辺うまくいかないというのが実情でして、部会長おっしゃっていただきましたけども、例えばどの辺の事象が悪くて、それを解決するためにはどんなふうにしたらいいのかというアイデアもちょっといただいて、その辺また一緒に議論をさせていただきたいと思ってます。僕らもその考え方を頭から否定するわけではなくて、地域活動支援と健康福祉の部署が連携しながら、まさに区内の隅々まで目が行き届くようにするというのがまず大事だと思いますし、そういった一方で、やっぱり我々限界がある中で、地域活動協議会をはじめ、いろんな各種団体にどのようなその辺の役割を果たしていただくかというのを合わせて考えていかなあかんというふうに思ってます。そういう意味で、例えば当面、何を解決するために、どういうふうに行政も含めて地域も含めて課題解決したらいいのかというのを検討したいと思いますので、またいろいろ意見交換をさせていただければなと思ってます。最後に笹原委員のおっしゃっていただいたのも、僕もその内容つぶさにはわからなかったんで、コメントが適切ではないかと思うんですけども、やっぱり団体間の壁みたいなのがあって、それをどう解消していくかというのは、やり方で、例えば法律で全くあかんというものではなく、やり方でカバーできる部分もあるかと思いますが、その辺またいろいろ、先ほどおっしゃっていただいたことを具体的におっしゃっていただければ、我々もどの辺で解決できるのか一緒に考えていると思っております。

今日は平成29年度に向けてということで、いろいろご意見をいただきました。また来年度の予算、運営方針をつくる際には、今日いただいた議案も踏まえて、また引き続き議論すべきことは議論して行って、いいものを一緒にみんなでつくり上げてい

きたいと思いますので、一つよろしく願いします。どうもありがとうございました。

○久木部会長 それではありがとうございました。河村区長は非常に優秀な区長なんで常々誇りにも思っております。ぜひ今後ともご協力をお願いしたいところであります。

今日は皆さん、ちょっと長時間になりましたが、最後まで本当にありがとうございました。事務局何かありますか。

○河本保健福祉課担当係長 本日は非常に多くのご意見いただきましてありがとうございました。1点事務連絡があります、本日始まる前にお尋ねしておりますおりました次回の部会について、皆さん方からご回答をいただいております。

日程ですが、11月4日金曜日であれば、皆さん方全員ご出席できる日付ということになりますので、この日付で次回の開催を進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでございしますか。

○久木部会長 はい大丈夫です。

○河本保健福祉課担当係長 それでは事務局からは以上でございします。

○久木部会長 それでは、これで本日鶴見区区政会議第2回地域コミュニティ・保健福祉部会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 20時37分